

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

浜松市長 中野 祐介

市町村名 (市町村コード)	浜松市 (22130)	
地域名 (地域内農業集落名)	伊佐見地区 (別紙のとおり)	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和5年11月27日 (第2回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。
注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

・耕地は、低地水田エリアと低地畑地エリア、台地畑地エリアに分かれる。
 ・古人見干拓工区など一団の優良水田では、基盤整備事業による農業施設の更新とともに農地の集積・集約化が進められている。
 ・低地畑地は主に露地畑作(葉物野菜等)で利用されている。
 ・伊左地川河口部の尊農地区は、一団の優良水田で担い手による利用意向はあるが、農地貸借の調整方法が確立されていない。
 ・台地畑地は、ハウス畑と大規模担い手による露地畑作(レタス・キャベツの産地を形成等)で利用されているが、ハウスのリタイア地が増えている。跡地は大規模担い手による利用が進んでいるが、ハウスのリタイア地から集積しているため、作物混在や担い手の耕作地分散が生じている。ハウスと露地のため交換集約は難しい。また残置ハウスにより利用が妨げられている。

【地域の基礎データ(R5.1担い手アンケート)】

・担い手農業者45名(69歳以下又は70歳以上後継者あり43名、70歳以上後継者なし2名)
 ・主な営農類型:水稲作1名、露地畑作15名、ハウス畑作26名、露地果樹0名、ハウス果樹1名、茶2名、花木0名、畜産0名、その他0名

(2) 地域における農業の将来の在り方

・農協や大規模担い手により形成された作物産地の維持・発展を図る。(施設野菜、水稲、キャベツレタス等)
 ・担い手間調整を進め、作物ごとの団地化により、作物混在を解消し、各々の耕作作業の効率化と農薬ドリフトなどの混在問題の解決を図る。まとまったほ場の確保により、将来的なドローン利用や作業の自動化などスマート農業の導入の可能性を高める。
 ・担い手耕作地の集約化に支障となっている荒廃農地の再生利用を図る。
 ・リタイア時の耕作地やハウス等の農業施設の引継ぎ方法の確立、地域への周知浸透を図る。
 ・一団の水田地では、基盤整備事業等により、畦畔撤去や区画の均平化(レベル出し)等でほ場の大区画化を進め、より効率的な耕作作業ができるようにする。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	397.3 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	397.3 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

・農振農用地区域内の農地(青地農地)とする。ただし流動性の低い営農型太陽光発電下部農地は除く。
・当初設定においては第91回農用地区域の変更(令和7年2月)に係る農地は除く。(このため上記(1)の面積は今後の変更あり。第91回農用地区域の変更分の確定後に面積確定する。)

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
・農業委員会(農業委員・推進委員)の農地利用最適化活動や農協、土地改良区による農地集積事業(定期的な貸出農地募集→利用調整の事業)により、担い手を中心に農地中間管理事業を活用した農地の利用集積を進める。集団農地では耕作地の集団化(集約化)のための耕作地交換を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
・農地中間管理事業の農地利用の交換・集約機能を活用するため、まずは農地中間管理機構への貸付の拡大を図る。その後、農地中間管理事業の農地利用の交換・集約機能を活用し、担い手リタイア時の耕作地の適切な継承や、担い手個々の耕作地の段階的な集約化(集団化)を図る。
(3)基盤整備事業への取組方針
・担い手のニーズや地域の課題等を踏まえ、必要な基盤整備事業を進める。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
・現存の担い手による農地利用を優先しつつ、必要に応じて地域外から多様な経営体を募り、担い手として育成していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
・地域の作業をまとめて実施することにより効率化が期待できる農作業については、担い手への作業委託を進める。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

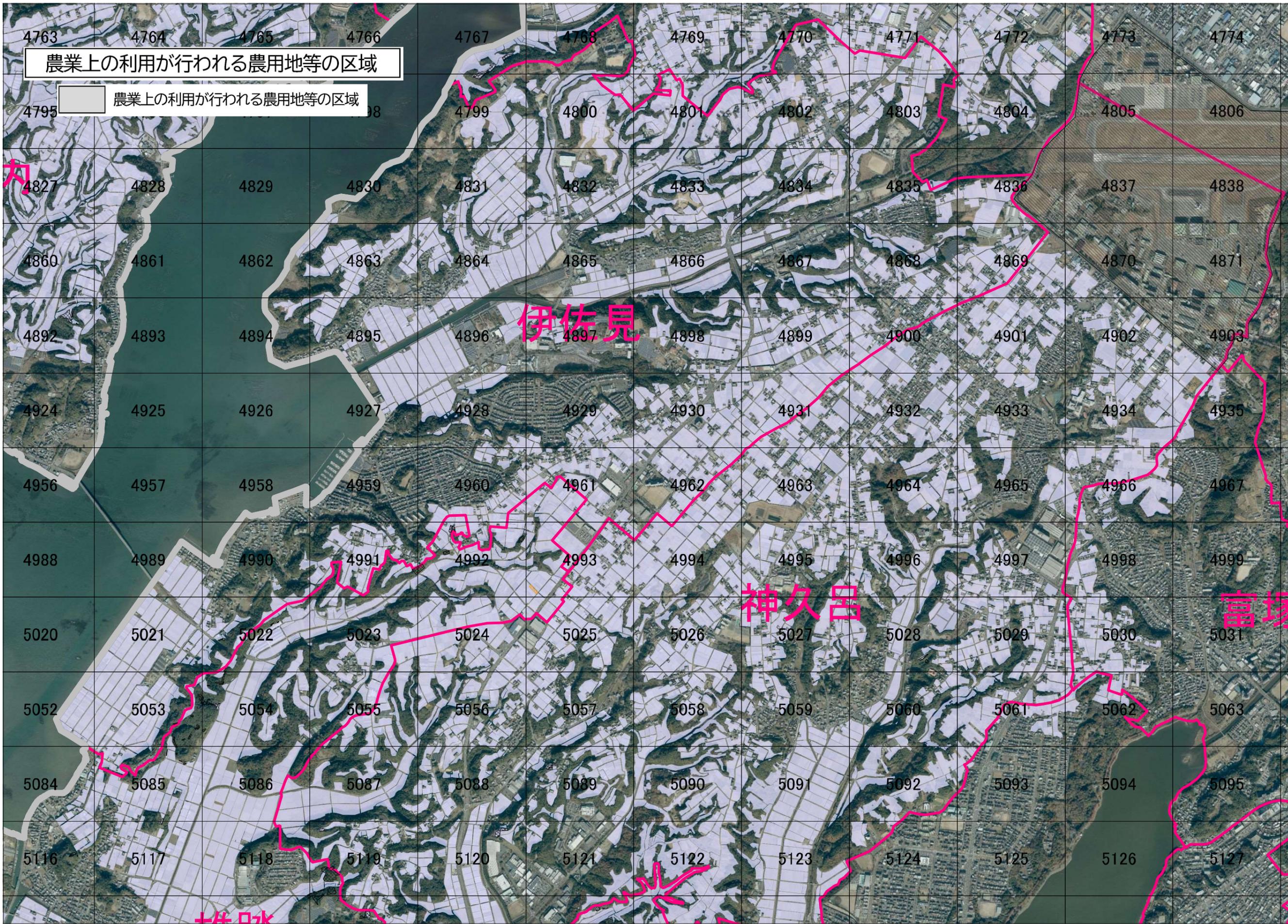
<input type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input checked="" type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

③⑧一団の荒廃農地を利用した基盤整備事業と農地集積事業の一体実施による優良農地創出、大規模で先進的な花き栽培施設担い手誘致(伊左地地区)
 ⑦地域環境保全活動(多面的機能支払)…伊佐見地域農地・水・環境保全管理協定

(別紙)

地域計画の地区	地区	農業集落名
伊佐見	伊佐見	伊佐見村・佐浜
伊佐見	伊佐見	伊佐見村・新田
伊佐見	伊佐見	伊佐見村・谷上
伊佐見	伊佐見	伊佐見村・伊左地
伊佐見	伊佐見	伊佐見村・大人見
伊佐見	伊佐見	伊佐見村・古人見



農業上の利用が行われる農用地等の区域

農業上の利用が行われる農用地等の区域

伊佐見

神久呂

富塚

土佐口

本図面は境界等の権利調整・確認には使えません

地域計画の地域の話合いの進め方

○参加メンバー

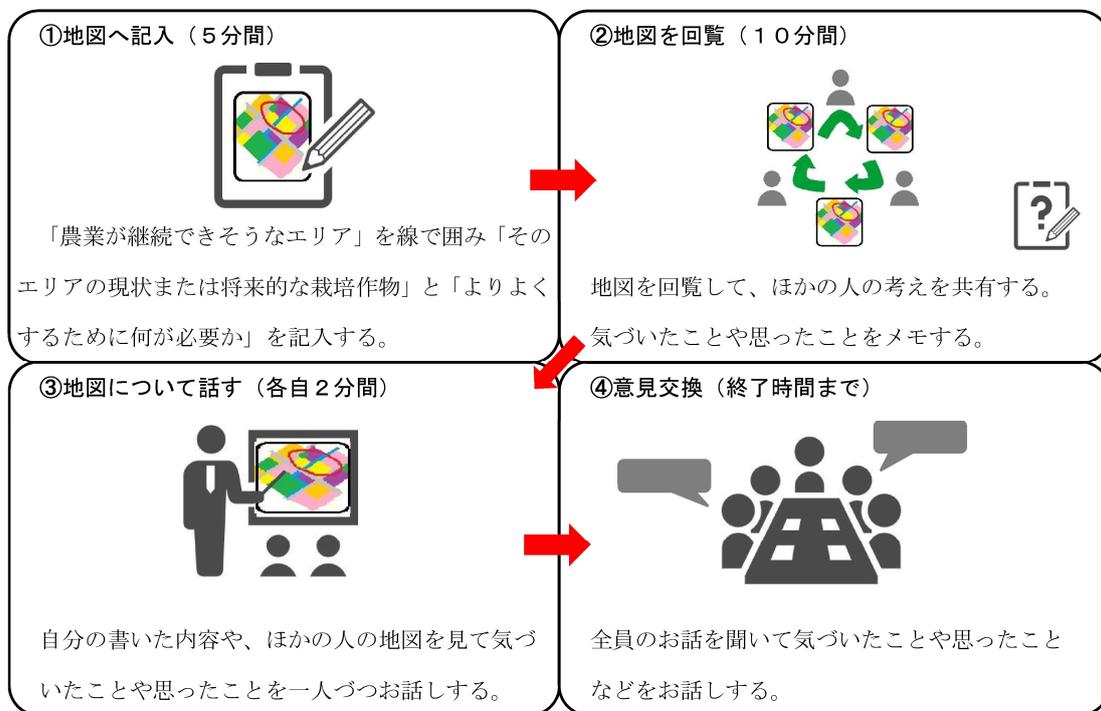
農業を行う側

- ・浜松市認定農業者協議会の役員
- ・地区内の農業者
- ・農協の産地作物部会の役員
- ・農協職員(地区営農支援担当)

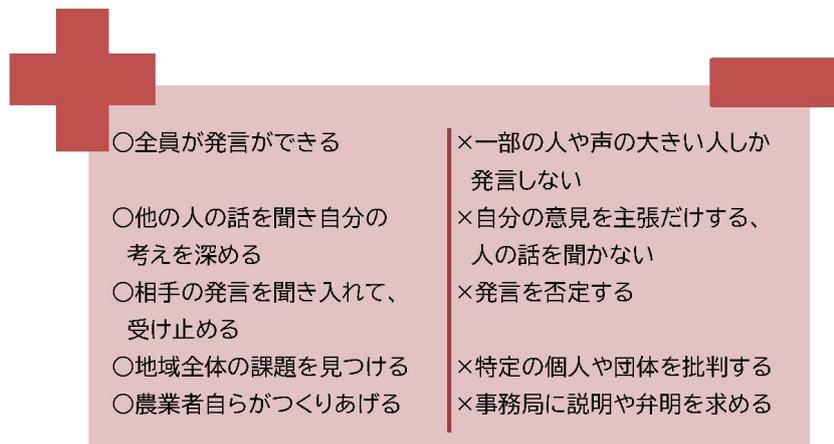
農業のサポート側

- ・農業委員、推進委員
- ・土地改良区、水利組合の役員
- ・中間管理機構(県公社)の職員
- ・県、市の職員

○話合いの進め方



○話合いのルール



地区	出された意見(個人が特定される意見は除いてあります。)	意見掲載日
伊佐見	土地改良事業 2ha農地集積 中間管理事業 1.5haのハウスで菊30種栽培	
伊佐見	水田23ha、畑3ha耕作者決まっている 令和6年から事業に入る	
伊佐見	大区画化で認定農が入りやすいように	
伊佐見	施設園芸 放棄地、谷間などにある 将来的にいい型で農地を作っていけるように	
伊佐見	共通認識がない 意見をまとめていくのが大事	
伊佐見	水田の担い手1人だが面積大きい、どうやって活用していくべきか	
伊佐見	担い手まばら、自作けっこういる 今後、相続等でどうなっていくか心配	
伊佐見	集積、集約を考えていかないと	
伊佐見	地図で見える化は良い取り組み	
伊佐見	継続できそうなエリア、広げていけるエリアのリスト化が大事	
伊佐見	黄色の部分 水が通っていない所の用水をどうしようか、担い手として考えている	
伊佐見	200人以上の地主、話をまとめて大規模大区画化できて感謝	
伊佐見	1軒ずつの交渉大変、地元組合役員の方の協力必要	
伊佐見	放棄地の担い手に借りてもらっている	
伊佐見	伊佐地・佐浜の谷間が原生林化、もったいない	
伊佐見	集約していくと細かい田畑が点在している	
伊佐見	区画し直し大きな1枚、返す時に測量必要 面積、地主の集約しにくい どう工夫していくか	
伊佐見	23ha、171名アンケート 今後自分で管理していくは3人 1反割を1町歩割にする	
伊佐見	水田の効率化必要 畑是集約(大区画化)しにくい 作物色々	
伊佐見	枝物は温暖化でダメ 1. 集約化、大規模効率化 2. 小規模で付加価値	
伊佐見	JAに高く売ってもらいたい	
伊佐見	トモロコシのブランド化、直売所で地域の人とのふれ合い 無人販売も	
伊佐見	NHKで米特集 5年後生産者が半分に減る、米不足に 国の助成あるかも	
伊佐見	食糧危機は必ず来る 大規模農に頑張ってもらいたい	
伊佐見	米農家少ない 継続できる形を	
伊佐見	土地改良、所有者データある 第三者入って話をする まとめる役割、基盤整備	
伊佐見	後継者不足、やる人いない 土地改良の役割大切	
伊佐見	担い手の確保、施設の維持管理	
伊佐見	露地野菜 利用権-中間管理 円滑な切替	
伊佐見	台風の際の塩害 六軒川周辺で水害多発 水路を整備出来ないか	
伊佐見	合流地点がひどく、ゴミも水田に流れ込む	
伊佐見	古人見…尊農 台風時の塩害	
伊佐見	六軒川のオーバーフロー対策市に	
伊佐見	地域内での計画等がきちんとされている	
伊佐見	大雨対策、水害問題もかかえている(排水路)	
伊佐見	共通認識がない みんなの意見を集約することが大事	
伊佐見	水田の利用 担い手1人? どう利用?	
伊佐見	利用権設定の有無	
伊佐見	露地野菜の拡大可能性	
伊佐見	畑作と水田エリアがほぼ分かれているので、農地利用的にはすばらしい	

地区	出された意見(個人が特定される意見は除いてあります。)	意見掲載日
伊佐見	放棄地の解消が必要	
伊佐見	担い手の耕作地が点々としている	
伊佐見	今後のことを考えて、担い手への農地集積が必要だと思う	
伊佐見	露地作物 集積 担い手確保	
伊佐見	施設の維持管理 区画整理	
伊佐見	継続エリアと不可エリアの見える化	
伊佐見	開拓エリアのリスト化をする	
伊佐見	用水があれば耕作可能	
伊佐見	担い手への集約が求められている	
伊佐見	利用権を中間管理へ移行 円滑な利用促進	
伊佐見	担い手の確保に、補助金、支援制度	
伊佐見	放棄地、谷間が多い	
伊佐見	田、畑が小さい 土地の区画(地主をどうする)、高低差を整備する	
伊佐見	後継者がいない→荒廃地になる→集積化	
伊佐見	経営できるか→小規模でもやれる利益が高いものに切り替えたい	

農地利用図(伊佐見)

【全体】

・地区内で基盤整備+農地集積事業が進みつつある。

・担い手への集積が進んでいる(改良区が支援)

・基盤整備+農地集積事業完了
(放棄地→先進農業施設用地)

・基盤整備+農地集積事業の検討

・基盤整備+農地集積事業の実施(R6~)

着色凡例

田 (担い手・利用権)
田 (その他自作地)
畑 (担い手・利用権)
畑 (その他自作地)
荒廃農地

【地図に書き入れること】

- ①将来的に農業が継続できそうなエリアを丸で囲む(だいたいOK)
- ②そのエリアの「作物」と「農業を継続していくために必要なこと」を記入する。